

学びのデザインシート（授業前）

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【作業学習】

1. 対象 特別支援学校 高等部紙工班

生徒の主障害は知的障害であり、自閉症など発達障害を併せ有する生徒もいる。指示を出す際には、分かりやすくシンプルな言葉での指示や、イラスト、写真、実物等を使いながらの指示が必要となる生徒が多く、手順や取り組むことを理解して身に付けていくために繰り返しの活動が有効である。

- ・3年生5人は昨年度から紙工班に所属している。1年生4人、2年生5人は今年度より紙工班に所属。2年生は3月、1年生は5月から和紙ができるための作業工程に一通り取り組んでいる。各工程がつながり、和紙をすいて製品作りをしているというイメージを持って取り組んでいる生徒は少ない。
- ・班内では皮むき、たたき、割き、ミキサーの4グループに分かれて紙すきの資材作りを行っている。自分の担当する工程が分かって、時間いっぱい作業を進めることを目標とする生徒から出来栄えや資材の状態を見て自分で確認しながら、よりよい製品作りのために工夫して取り組むことを目標とする生徒まで、実態は幅広い。

2. 単元名 「胸を張っておすすめできる和紙を作ろう！」（全21時間）

3. 単元で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	・様々な和紙や和紙製品を見て、和紙のよさや、自分たちが作っている和紙とは違う色々な和紙もあることに気づいている。 ・紙すきのための資材作りの各工程で、やることや道具の扱い方、工程のポイントが分かり、担当する作業に取り組んでいる。
思考力、判断力、表現力等	・工程のポイントを意識しながら各工程で求められる資材になるよう、手順を守って資材を作っている。 ・目指す和紙に必要な材料やその素材の配置等を考えている。
学びに向かう力、人間性等	・工程ごとの目標量の資材を作るために自分から作業に取り組んだり、時間いっぱい集中して作業に取り組んだりしている。 ・自分たちが目指す和紙はどのようにすればいいのか考え、試行錯誤しながら製品にあった和紙をすこうとしている。

4. 授業展開【 本時 ・ 単元 】

解決したい課題や問い
胸を張ってお客さんに出せるよりよい和紙を作って製品にしよう！

考えるための材料		
様々な和紙や和紙製品と自分たちの作った製品	各工程の手順表やチェック表、扱う道具（タイマー、規格判断の道具等）	試作した和紙や皮や繊維の量を記録したワークシート、紙のすき方の動画
想定される活動		
様々な和紙・和紙製品にふれ、自分がいいと思う物を手に取ったり、じっくり見たりしている。 自分達の作ってきた和紙との違いに気付いたり、どう違うのか考えたりする。	規格に合っているか、決められた時間や分量でできているかを、自分で確認したり教師に確認を依頼したりしながら製作を進める。	どのような分量で皮や繊維を入れるのがよいか、どのようなすき方だとよい和紙になるかを、試作した物と漉き方を振り返りながら考える。

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）
1 色々な和紙・和紙製品を見てみよう 対話の方法 紙工班全員で、単元の最初に和紙のよさにふれる時間を設定する。 展示会場のように和紙や和紙製品を並べて配置し、じっくり見ることができるようにする。 対話や思考のプロセス ・「いろんな和紙があるんだな。」「この和紙のように作りたい。」「自分達の作っている和紙とは違う

よ。」等、どんな工夫をしていきたいかアイディアを出し合う。

- ・「今作っている物に工夫してよりいい製品にするための和紙を考えたい。」「今の製品にこんな工夫を取り入れて作ってみよう。」と今の製品からどのように工夫してよりよい物にするか考える。

2 和紙を作ろう

対話の方法

皮むき、割き、たたき、ミキサー、企画班（紙漉き）の5グループに分かれて作業をする。

個に合わせて資材作りのポイントが分かる教材を用意し、グループで確認してから取り組むようにする。

（タイマー、回数、見た目やサイズなど）

教師は生徒に対し、即時評価を行い、良いところやもっとうまくいく方法について確認できるようにする。また、振り返りの際、それを活用できるようにする。

企画班は皮や繊維の量・すき方と出来栄えをワークシートを活用して振り返りながら記録し、どのようにするのがよいか考えられるようにする。

対話や思考のプロセス

- ・「よりよい製品にするためにポイントを確認しながら資材を作ろう。」「時間いっぱい作ろう。」「たくさん資材を作ろう。」と自分で規格チェックをしながら取り組む。
- ・「よりよい和紙にするにはどうしたらよいか。」と考えたり、「こうしたらうまく出来た。」「ここを変えればもっとたくさん作れそう。」と振り返りをしたりして改善や工夫をしながら取り組む。

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

- ・こういう和紙をすきたいという思いを持って自分の作業工程に取り組んだり、和紙を漉く計画を立てて仲間に資材作りについて依頼したりする。
- ・資材作りの中で「これで規格に合っているかな。」と生徒同士で確認したり、教師に報告したりする。また、うまくいかないときには自分から仲間や教師に相談する。
- ・決めた作業量に取り組めるよう、自分からどんどん作業に取り組む。
- ・即時評価を活用した振り返りや出来てきた資材・製品を見て、自分達の製品や自分に自信を持ち、よりよい製品作りに向けて意欲的に作業に取り組んでいる。
- ・今までの和紙に工夫をしてよりよい和紙がすけるようになったことや規格に合った資材をたくさん作れたことに自信を持ち、次単元の製品作りやこれからの和紙作りに意欲を持つ。